

令和3年度北本市立中丸小学校 自己評価及び学校運営協議会評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		外部評価		
			A+B /全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	○学校として本年に必要な備品を購入できるシステムに変更する。 ①1学期中に教科主任に備品の現状確認及び購入希望の検討依頼をする。 ②夏休みに検討委員会を実施し、購入希望リストから、優先順位を設定し、購入希望書を作成する。 ※但し、算数・理科について、必ず執行しなければならない予算がついていることに留意する。 ○業務改善の視点からふれあいデーの取組を継続する。	A	A	・資料2ページの表より、学校全体の残業時間がかなり減少していることは、すばらしい。今年の10～12月にかけては、学校行事が昨年度より例年に近い形で実施できたと思われるが、残業時間は減少傾向にあるので、持ち帰りの仕事時間等が増えなければ、働き方改革が進んでいる成果と捉える。 ・欠席連絡をメール主体で行うことは、保護者の負担軽減につながり良いことと思う。学校側でも負担が増える職員がいない形で実施できていれば、すばらしい。 ・教育効果が期待できる備品購入システムの変更に工夫が感じられます。
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあつている。	100	○業務改善の視点からふれあいデーの取組を継続する。 ふれあいデーは、働き方改革の一環として、全県で取り組んでいる(会議や研修会を行わない、保護者や地域にも協力を求めている)。加えて本校では、カエル会議により、取り組みやすい独自の日程を設定している。こうしたことに鑑み、引き続き、ふれあいデーを実施する。但し、保護者からの教育相談や緊急対応等でどうしても取組めない場合は例外を認める。 ○校内支援体制図を作成し、事故やトラブル等に対して、次年度以降も別紙の通り、組織で対応する。	A	A	・自己評価及び改善策ともに適切と認められる。生徒指導上の問題解決については、マニュアル等に基づき組織的に対応しており、きわめて適切と認められる。職員に対する周知徹底と、いろいろなケースを想定した訓練により、一層のスキルアップを図られた。 ・先生方のAED講習などは行っているのでしょうか。一行っていきます。
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	96	○校内支援体制図を作成し、事故やトラブル等に対して、次年度以降も別紙の通り、組織で対応する。 困難を抱えた児童や不登校児童、保護者トラブルについては、担任の心理的、実務的負担軽減や次年度への引き継ぎの面から、対応について図式化した。	A	A	
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあつている。	100		A	A	▲中丸小独自日程設定のふれあいデー。確かに業務改善につながるとは思うが、それが時に先生方の負担になってしまうのではないだろうか。何か他に工夫が必要なのは。
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いて、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	100	○学力向上のためにも、今年度の指導・支援体制を継続させたい。 ・(0をつけている部分 コロナでできなかったから例年よりもできていないから。懇談会がないから致し方ない部分があるという意見)基礎学力の向上を考えると、指導側の人数を増やす。1クラスの人数を減らす。(弾力的運用を視野に入れる) ・今の体制で算数をやっていることで学力調査で良い結果が出ているならば、来年度も教員の人数を減らさずに今年度の体制を維持する。(今の3年生は、ひとり入るだけでは3クラスに分けるだけになる) ○土曜補習の計画を見直し、内容の充実と教職員の負担軽減を図る。	A	A	・体育のマット運動でICTを活用した授業が紹介された。児童にとつて自分の映像を見て学ぶことは、とても分かりやすく、また楽しいと思われる。 ・自己評価及び改善策ともに適切と認められる。コロナ禍において、感染症拡大防止対策と学校運営の両立に大変な努力が認められる。 ▲土曜補習については、働き方改革とのバランスを考慮する必要がある。地域に委託するのは、良い考えと思われる。 ▲家庭学習の習慣化の定着と同時に家庭での挨拶の定着化に努めてほしい。 ▲土曜補習の人員については、退職した先生や将来教員になりたい大学生など、学校単位でなく市の大きな取組で人員の確保をしていただければと思います。 ▲教職員の負担軽減と実効性の両面から、土曜補習のあり方を検討いただきたい。 ▲土曜補習を希望する児童も来てよいことにすると、学習意欲が高い児童が参加することにもなり、ますます学力の差がついてしまうのではないかと。本来、本当に学習支援が必要な児童が置き去りになってしまわないか。支援が必要な児童の保護者にもっと細かい説明など、積極的に働きかける必要があると思う。
	6	教員は、学力の向上を目指して、児童生徒の美態に基づいて日々の授業改善に努めている。	96	・土曜補習 (希望制から呼び出し制にした結果)・呼び出し制にしても来て欲しい人が来てくれない・希望する児童も来てよいことになると良いのではないかと、教員としては、出る回数(負担)を減らしたいという希望。しかしそれをすると学力は落ちる。中には土曜補習を資金的に希望する、増やしてほしい保護者もいるが。→地域に委託するのはどうか。(地域にも役割を担わせてほしいという意見もあるので)地域に委託する(中学校のナイトスクールの)・45分→コマのためにするのは大変なので、2コマを増やしてはどうか	A	A	
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあつている。	100		A	A	
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	92		A	B	
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	84	○あいさつを奨励する取組を継続し、児童が進んであいさつできるようにする。 ・継続的に意識させるために、教師がクラスで挨拶についてフィードバックする頻度を増やす。 ・あいさつカードの継続をする。 ・伝える挨拶ができるように、挨拶の仕方を教えてあげる。 ・4年生以上の代表委員を募り、あいさつができるようになるための取り組みを考え、実行する。	B	A	・自己評価及び改善策ともに適切であると認められる。「いじめ撲滅強調週間」により思いやりのあつ行動への意識の高まりは大きな成果と認められる。挨拶の励行といじめのない学校づくりは一体の物であり、いじめ撲滅の成果を踏まえ、すすんで挨拶ができるまで「挨拶強調週間」等の取組を継続することで効果が得られると思う。
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	88	○児童の発達段階に応じた言葉遣いの指導を行い、正しい言葉遣いをめざす。 ・困難を抱える児童に対して、全てについて敬語で話させようとするのは無理が出るため、常に敬語にしないという指導はできない。 ・職員室に入ってくる児童への指導等、気づいたときに正しい言葉遣いを教えてあげる。	B	B	・挨拶させることが目的ではなく、挨拶するおどるようにはほしくないのか、児童一人一人がその意味を理解することが大切と思われる。以前、学校に伺ったとき、休み時間に児童がよく挨拶してくれたという印象がある。 ・地道な指導の継続をお願いします。 ・あいさつは、学校だけの問題ではないので、皆で協力していきたい。
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合つて学校生活を送っている。	100		A	A	・あいさつは毎回話題になる項目。まずは家庭からなのだが、登校班を見てみると、班長が元気にあいさつができる班は、他の下級生達もつられて元気にあいさつをする。逆に班長があいさつをしない、恥ずかしがりやさんの班は他の下級生達もだんまり。4年生以上のあいさつ代表委員会はとても良いことだと思う。ぜひ実行してほしい。 ▲挨拶ができるようになるための取組として、伝える挨拶、挨拶の仕方の観点から、まず率先垂範として、教える指導者も日頃大声で子ども達に伝えるよう全員で心がけてほしい。来校者には進んで挨拶できるが、登校時の班編成の折は大声での挨拶が欠けており、従つて班員もそれに準ずるようです。以上を改善したら、さらに良くなると思う。
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100		A	A	
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	96	○防犯対策に努め、安全な校内環境を築く。 ・7:30頃開くようにしていく。但し、A棟B棟通路については、給食調理員が通過するため、鍵はあけておく。	A	A	・自己評価及び改善策ともに適切である。南側通用門が整備され、安全な校内環境が確保された。特にトイレの防犯上の不安が解消された。 ・7時半に鍵を開ける方に負担がかからないように考慮することが必要だと思う。
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようとして努力している。	100		A	A	
保護者・地域	15	本校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。					・ホームページ新しくなって見やすくなりました。 ・下校時、引き続き保護者や地域との連絡を取り、不審者対応に心がけてほしい。特に夕暮れ、最後に一人になることを極力避けてほしい。(特に人通りのない帰り道には気をつけてほしい。)
	16	本校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	96		A	A	・自己評価及び改善策ともに適切と認められる。 ・学校だよりがメール配信となり、写真の掲載がなくなったとのこと。メールだけだと事務的な連絡事項になってしまう、味気ない気がする。ただでさえコロナ禍で保護者が学校へ行く

異校種間連携	17	本校は、保護者や地域と連携し不審者対策のハロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	96		A	A	機会が少なくなり、もっと学校の様子を知りたいのではないだろうか。先生方は大変かも知れないが、2〜3ヶ月に一度の発行とか、学年だよりを紙配布にしてはどうだろうか。ちなみに、当時私は月一度の学年だよりは身近な項目ばかりだったので毎回来しみにしていました。→学校だより、学年だよりともに写真掲載しています。メールでの配信のため、カラーで見やすく好評いただいております。
	18	本校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	100		A	A	
学校独自の項目	1	本校は、研修体制が明確で、研修が計画的に行われている。	100	○研修計画を見直し、実態に応じた研修ができるようにする。 ・学校課題としてやりたい研修内容と、実施されている研修内容に差がある。 ・年間指導計画は、全てを組み替えずに問題があった箇所のみを次年度に共有して修正することで、時間短縮を図る。 ・締切などを、市教委が柔軟に対応してくれると良い。(経営案や年間計画等) ・タブレットや電子黒板の研修に関しては、研修時間だけでは足りない印象があった(研修内容と設定時間にずれがある)。 ○年度当初に宮内中学校区の3校で協議し、合理的に連携が図れるような体制をつくる。	A	A	・教科担任制については「働き方改革」に向けてハードルが高いと思われるが、全教科の平均点数を向上させることが望ましいが、何か一つ得意である、人より自信を持つことが出来る。この点は重要であり、将来につながる。同じでなくて良いから、自分らしさを引き出す。 ・自己評価及び改善策ともに適切と認められる。研修や会議を通して創意工夫に努め、積極的に業務を改善し効率化、能率化を図っていることは評価できる。一方においては、根本的な改善は少ないとの自己評価もあり、具体的な成果について見える化を図ることにより、職員のモチベーションの一層のアップが期待できると思われる。
	2	本校は、研修授業、教材研究、指導方法に関する研修等を適切に行い、教職員が意欲的に参加している。	96	・432制がうまく機能しておらず、人手だけが取られている印象。学区が複雑なため、中丸小ではやりづらい。 ・中学校へ出張に行く先生の負担が大きい(担当の先生を決めて、年間を通して行くのはどうか。昨年の担任や主幹が行く)。 ・教科が道徳だけなのも疑問(算数や国語等の教科でも良いのではないか)。	A	A	・中学校や高校と比べ部活動指導の時間が少ないにもかかわらず、小学校教職員の残業時間が多い要因の一つは、多数の教科等の教材研究が必要であるからと思われる。予算の関係もあるが、学校の実態に応じて、できるところから教科担任制を進めていくとよいのではないか。
	3	本校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「わかる、できる、楽しい算数の授業」に向けた授業改善に取り組んでいる。	96	○年度当初に入り授業及び時間割を調整し、効果的な指導ができるようにするとともに、教職員の負担軽減を図る。 ・教科担任制は、来年度が発表の年のため、算数は難しい(少人数制の影響もあり)。 社会や理科を教科担任制にするのもありだが、その学年の先生の立場によっては難しい場合もある(初任者などは経験不足になる可能性がある)。 教科担任制により、毎時間先生が変わることになると、生徒指導が行いにくくなる可能性も考えられる。ただ、教材研究の時間削減にはつながるので、各学年の実態や先生方の考えによっては、取り入れても良いのではないか。	A	B	
	4	本校は、「働き方改革」に向けた業務改善をすすめている。	96	・職集の終了時間が伸びてしまうことが多いため、時間を前倒しにできないか。	A	A	
	5	本校は、むし歯の治療勧告を受けた児童への指導など、歯科保健指導を積極的に行っている。	100		A	A	
	6	本校は、校内支援体制を整備している。	100	○個別の支援を必要とする児童への対応を継続し、一人一人のニーズに対応した適切な支援を行う。 (スタート時児童6人に対して担任2、支援員2)なかよしは、だれが来てもあたたかく迎えてくれる。学力向上支援員の配置を毎学期見直す。算数以外の国語の作文などに入ってもらおう。教員側は、今以上の人数になると厳しいので、来年度受け入れられない可能性がある。これ以上増えると、これまでの教育の質よりも落ちてしまう。特別支援教育に対する理解を求める文章を学校だよりにかいてもらったが、来年度も続ける。(障害をもってた児童の支援に限定せず、配慮が必要な児童への支援のことも言っている書き方が良かった)	A	A	・すべての子どもが支援の対象と、教職員に認識されていると感じられる。 ・特別支援教育コーディネーターやカウンセラー等、外部人材の協力を仰ぎ、特別支援教育が必要な児童とその保護者に対応していくことがよいと思われる。 ・生活や学習上、配慮、支援が必要な児童に一人一人の個性や違いを認め、その子の良さを十分に引き出していく指導をする。そのためには教員、支援員の人数の確保は大前提。全国的にも教員不足の問題に県や市も具体的な対策を検討する必要があると思う。
	7	本校は(なかよし学級以外にも)個別の支援を必要とする児童への対応を適切に行っている。	96		A	A	
来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)				学校運営協議会の総評			
1 不登校児童や保護者への組織的対応 2 算数科の研修の推進 3 ICTの効果的活用 4 体力向上 5 働き方改革の推進				・コロナの終息が見えない中、行事の変更等、学校は頑張っていると思います。 ・今回の評価は第2回学校運営協議会や授業参観も中止になり、2学期以降の学校の様子が分かりにくく、正直とても難しかったです。 ・自己評価及び改善策ともに適切である。長引くコロナ感染症拡大防止と学校生活の維持との両立という難しい課題に取り組み、家庭内学習、学校行事に対する工夫、保護者との連携等、大変な努力が認められます。感染予防の観点から、地域の多くの行事が中止になり、子ども達の実社会からの学びの機会が減少している。感染拡大のリスクを可能な限り低減しながら、地域との触れ合いの機会を維持するための方策について検討する必要がある。			

北本市立中丸小学校 学校運営協議会(敬称略)	学校運営協議会実施日
会長 福島 達雄 副会長 牛山 武彦 委員 萩原 綱夫 委員 酒井 都子 委員 大竹 郷美 委員 柏瀬 茂夫 委員 金室 紀夫 委員 山口 修	第1回 令和3年6月3日(木) 第2回 令和3年10月8日(金)→紙面協議 第3回 令和4年1月21日(金) 第4回 令和4年3月1日(火)

＊「自己評価の適切さ」について

A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である

＊「改善に向けた取組の適切さ」について

A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる
C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する

＊学校の取組に関する評価と今後の改善点等について

- ・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。
- ・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。

＊その他全体的な留意点

- ・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)
- ・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。
- ・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めてください。
- ・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。